

船井情報科学振興財団 第一回留学報告書

平田 憲
2022 年 6 月

はじめに

2022 年春に北海道大学理学部を卒業して、5 月に渡米、コロラド大学ボルダー校大気海洋科学科での大学院留学生活が始まりました。この報告書では、アメリカ大学院への進学を考えている人や合格に必要な手続きについて知りたい人のために、準備開始から進学決定に至るまでの経緯を記します。

2020 年末 - 大学院留学について真剣に考え始める

私は学部入学以前から、専門の気象学について海外で学んでみたいと思っていました。そこで、まずは北大の交換留学の仕組みを使って、アメリカの大学で学ぶことを計画しました。期間は、学部の履修に支障をきたさず長期の留学が可能な、学部 3 年の夏から 4 年の春の 1 年弱に設定しました。学部 2 年の秋からコツコツと準備を始め、学内の書類選考と面接を無事通過、交換先の大学に対する手続きを始めた矢先、COVID-19 のパンデミックが始まりました。交換留学は問答無用でキャンセルとなり、学部の授業は全てオンライン化。先の見えない日々が始まります。

そんな失意の中、海外の大学院に進学したとある先輩が、帰国せず海外に残って研究を続けていることを偶然知りました。ちょうどその頃、海外大学院を志望する人と交流して刺激を受けたのも重なって、自分も海外の大学で正規の大学院生として留学しよう、と思い立ったのでした。2020 年の暮れのことです。

2021 年春 - アメリカ大学院への出願について情報を集める

海外大学院進学の可能性はそれまでも頭の片隅にはあったものの、いざ準備をするにも何から手をつけたら良いのかわかりませんでした。片っ端からウェブ検索をして、

- [XPLANE](#)
- [米国大学院学生会ニュースレター](#)
- [北大海外大学院留学ガイド](#)

などのサイトの情報を読みあさりしました。また、ウェブ検索や XPLANE を通した繋がりをきっかけとして、同じ気象学の分野で過去に海外大学院で博士号を取った方々と連絡をとることが

できました。それぞれ現在アカデミアでアクティブに活動されている方々で、私とのやり取りのために貴重な時間を割いていただいたことにとても感謝しています。

これらの情報収集の結果、出願には以下の準備が必要であろうということがわかりました。

- 出願書類の準備
 - **Statement of Purpose (志望理由書。SoP としばしば略す。Personal Statement ともいう) 作成**
 - **推薦状 3 通の作成依頼**
 - **英文成績証明書の発行**
 - **英語試験(TOEFL/IELTS)の受験**
 - (GRE 受験)
- 給付奨学金への応募
- 進学先候補の研究室とのやり取り

太字で示した項目は、出願に必須の書類です。給付奨学金の応募と研究室へのコンタクトは必須ではありませんが、個人の私見としては強く推奨されるものだと考えています。その背景としては、アメリカの大学ではしばしば、大学院生には給料が支払われ、その給料は教授(より正確には PI = 研究室を主宰する教員。准教授なども PI になりうる)の研究費でまかなわれる、という事情があります。つまり、給付奨学金を受けてやってくる学生は、教授の目から見れば研究費を使わなくて済むことになります。また、教授とのやり取りがあり学生のことを良く知っていたほうが、給料を支払ってもきちんと研究をしてもらえそうだという確信が高まります。一方で、給付奨学金の応募に向けて研究計画書を書いたり、いろいろな研究室の話を知ったりすることで、自分がしたい研究が明確になるというメリットも強く感じました。詳しくは後ほど書くことにします。

英語試験は学内で IELTS の試験を受ける機会が 2020 年末にあったので、そのスコアをそのまま使用することにしました。その時点である程度使えそうなスコアを取得でき、出願書類作成が忙しくなる 2021 年の夏以降に持ち越す必要がなかったのは幸運でした。

なお、括弧書きした GRE は、私の場合出願に使うことは一度もありませんでした。GRE は数的・言語的スキルと作文力を試す統一試験で、アメリカの大学院出願に長らく必要だったようですが、学生の能力を測る尺度として適切ではないとして、昨今は必須としない、または一切選考に用いないところが増えているようです。

2021 年夏 - 給付奨学金の応募とコンタクトの開始

1. 給付奨学金の応募

前述したように、給付奨学金に応募することは、採択された場合に大学院合格の可能性が高まると同時に、応募申請書を書く過程で自分の研究計画が明確になっていくというメリットが

あります。一方、給付奨学金に採択されなかったからといって、アメリカ大学院に合格できないわけでは全くありません。実際、私が進学先候補の教授と対話した中で、給付奨学金の獲得を前提にされることはありませんでした（が、これは分野が違くと事情が多少違う可能性はあります）。

給付奨学金の一覧を知るには [XPLANE の奨学金検索データベース](#) が便利です。給付奨学金は、専攻や出身大学などの応募条件や応募時期がものによって異なるほか、授業料や生活費など支給範囲も異なります。6月頃には、自分の条件で応募可能な給付奨学金をリストアップしました。

給付奨学金の応募には、研究計画書に加えて指導教員などからの推薦状がそれぞれ1-3通ほど必要になります。推薦状は一朝一夕でできるものではないので、一番早い奨学金の締切が7月ごろであるのに合わせて、5-6月頃に各教員に依頼しました。

なお、給付奨学金の応募に向けた研究計画書の作成と推敲には大変な労力を要しました。応募時期が、併願していた国内大学院の夏の院試とも重なったため、当初応募を予定していた奨学金のうちいくつかを諦めることになりました。こうして、7月～10月頃までは研究計画書のことを頭から離れない日々が続きました。

2. 進学先候補の研究室へのコンタクト

奨学金の応募と並行して、進学先候補を本格的に調べはじめました。進学先を選ぶ際には、自分がやりたい研究ができそうな研究室を選ぶべく、過去に読んだことのある論文や関連する文献の著者、あるいはその共同研究者を片っ端から調べていきました。そして、研究の興味が近い順におおよそのランキングをつけて、順次メールを送り始めたのは5月ごろでした。

5月という時期は、連絡を始める時期としてはかなり早いほうだったかもしれません。というのも、研究室が新たな学生を受け入れられるかどうかは研究室の研究費の有る無しに大きく依存し、翌年以降の研究費の事情が確定するのは夏～秋以降になるためです。しかし、本当に興味を持ってくれた教授は時期が早くても応じてくれますし、給付奨学金の中には応募時に教授との連絡状況について尋ねられるものもあるので、この時期に連絡を取り始めて良かったと感じています。

ではいざ実際に連絡を取ろうにも、はじめはどうメールを送ったらよいか非常に迷いました。何度か試行錯誤した結果、1. 自分が何者であるか、2. これまでどのような研究をしてきたか、3. 今後取り組みたい研究が教授の過去の研究とどう重なるか、をなるべく簡潔に書き、来年の秋に学生を取る予定があるか尋ねるようにしました。また、補足情報としてCV(履歴書)を添付しました。はじめのうちはメールの文章に自信がなくても、たくさんメールを送るにつれて、よりスマートに洗練されていくものです。教授は非常に忙しいので、一度メールを送って数日～1週間くらい待っても返事がないことは多々あります。返事がない時は2～3週間後に追ってメールを送りました。私の場合、こうして5月～10月ごろまで断続的に20人以上にメー

ルを送り続け、2回メールを送ると9割以上の確率で何らかの返事があったのですが、他の方の体験と比べるとこれはかなり高い割合だったようです。

晴れて教授から返事がもらえても、その内容はさまざまでした。関連する論文やプロジェクトを紹介してもらえたり、単に「学生を取るかわからないけどとりあえず出願して」と言われたり。教授とのマッチングがあまり良くない時には、別の教授を紹介されることもありました。そして時々、好感を持ってくれた場合には、Zoomで話そう！と提案されることもあります。その場合は、その時点で取り組んでいた卒業研究の内容を4~5枚のスライドにまとめて紹介すると同時に、その研究室の最近の論文について質問をいくつか用意して臨みました。時差の関係でいつも早朝か深夜に接続するうえに、いきなり英語でコミュニケーションを取るのとはとても緊張しましたが、しぶとく頑張りました。教授と雑談がうまくいったり、研究室の学生と話せたりすると、研究室の雰囲気や他大学との比較など突っ込んだ話が聞けるので非常に参考になります。

2021年秋冬 - 出願書類の準備

1. 出願校の決定

夏のあいだずっと進学先について調べ続け、進学先候補の教授と連絡を取っていると、だんだんと出願したい大学が絞られてきました。9月頃に、一旦その時点で出願したい大学を10校洗い出し、志望順位をランク付けしました。基準としては、研究室の研究内容と教授との相性の良さを第一に考慮し、研究室の業績や規模、雰囲気などに加えて、学科の専門カリキュラムや規模なども考慮に入れました。なお、研究室へのコンタクトは9月以降も続けていたので、このランキングは随時変動しました。後述するように出願にはかなりのエネルギーと費用を要することから、最終的に出願校は7校にすることに決めました。なお、7校や10校といった出願校の数は、日本などアメリカ国外から出願する学生の場合には割と標準的なようです。

基本的に全ての出願書類は、各大学の出願用オンラインポータルにアップロードします。出願書類の要件を実際に確認するため、これらポータルのアカウントは9月中に作成しておきました。

2. 推薦状3通の依頼

推薦状は、選考の結果に大きな影響を与える重要な書類であるようです。合否は推薦状で7-8割で決まるという言説さえあります。自分で書くことができない文章であるため、内容の良し悪しは推薦者の力量にかかっているといえればそれまでなのですが、推薦者には少なくとも自分の研究内容や能力について具体的に分かってもらうことが必要です。そして、そういったことを知っている推薦者は、きっと優れた推薦状を書くことができるでしょう。3人もの推薦者を見つけるのが大変ですが、自分の卒業研究の取り組みについてよく知っている教員に依頼したところ快諾していただけました。給付奨学金応募の推薦状と合わせて何度も文章の作成をお願いしていたのですが、いずれも引き受けていただけるとも感謝しています。

推薦状は出願ポータル上で各推薦者のメールアドレス等を情報を入力する仕様になっていました。これを実行すると、推薦者に推薦状アップロードの案内が届きます。9月～11月頃に何度か、複数校分まとめて推薦者にアップロードを依頼しました。

3 . Statement of Purpose 執筆

推薦状と異なり、Statement of Purpose (SoP, 志望理由書) は自分の言葉で自分の思いを伝えられる文章です。1. 過去の研究経験、2. 大学院で取り組みたい研究課題とそれを見出したきっかけ、3. その研究課題に取り組むために適した指導教員の名前とその理由、の3つの要点を必ず含めました。また、文章を形作る上ではパラグラフィティングを心がけ読みやすくなるようにしました。形式は最大 250 単語という短いものから A4 で 2 ページ程度というもので、各大学でまちまちです。

また、SoP 本体以外に別な設問を求められることもありました。SoP の内容とも被るような入学目的・研究課題の中身を問う設問もあれば、学科の多様性やインクルージョンにどう貢献できるかを説明する設問もありました。アカデミアにおける多様性という話題について、北大の理系学部在籍して一度も触れたことはありませんでしたが、出願先大学の多様性に関するポリシーを読み自分自身の体験に落とし込むことでなるべく具体的に記入しました。

大学院で取り組みたい研究課題がただ一つであっても、各大学ごとに異なる形式を求められるため、一つ一つ丁寧に作成していく労力が求められます。文章の骨子(ストーリー)はおおよその大学に対しても似通う場合が多いため、まずは第一志望の大学の形式に合わせて SoP を作成しました。9月頃から初稿の作成に取り掛かり、XPLANE をきっかけとして繋がった博士号取得者から同じ研究室の学生まで、様々な人に読んでもらって推敲に推敲を重ねました。こうして、多くの方のサポートを受けつつ、第一志望大学に対する SoP を締切の 12 月 1 日の 2 週間ほど前に完成させ、あとは他の大学の形式に合わせてアレンジしていきました。こうして 9 月から 12 月末日ギリギリまで SoP のことで頭がいっぱいな日々が続きました。

4 . 英文成績証明書の発行

成績証明書は多くの場合、英文で発行されたものをスキャンしてアップロードする形式になっていました。幸いなことに、北大は英文の成績証明を無料で発行できたので、4 年次の 1 学期までの成績が載ったものを早めに提出しました。また、通算 GPA を出願ポータルの所定の欄に記入することを求められます。中には、最近取得した XX 単位の成績について平均した値を使え、というような特殊な GPA を求められる場合もあります。選考する側がこの数値をどれくらい厳密に見ているかは分かりませんが、出願する側としては気を遣います。

ある大学に対しては、英文成績証明書の原本(Official Transcript)の提出が求められとても苦勞しました。方法としては、成績証明書の原本を電子的に仲介する民間のサービスを利用するか、郵送で原本を送るという 2 つの方法があります。COVID-19 のパンデミックに関連して国際郵便に遅れが生じていたため郵送は避けたかったのですが、北大の事務がそのような民間サービスに対応しなかったため、郵送を選ぶことになりました。初動が遅れてしまい、12 月末日

の締切に対して 11 月下旬に発送することになり、間に合うかハラハラしたのを覚えています。

また、別のとある大学に対しては、第三者機関に依頼して成績証明書の評価を一つ一つアメリカの成績評価に換算するよう求められました。このサービスには決して安いとは言えない費用がかかります。この大学は、元々志望順位が高くなかったことに加え、このことに気づいた時には出願締切が迫っていたので、仕方なく出願を取りやめました。

5. 英語試験スコアの提出

英語試験のスコアとしては IELTS の結果を利用しました。スコアを公式に提出するには、IELTS に依頼して各大学にスコアを送付してもらう必要があります。これには、1 つの宛先に送るのに千円程度の費用がかかります。出願した大学は全て電子送付に対応していたので、早い時には数日で出願ポータルに反映されました(Verified, received などと表示されました)。ここで反映されていないと、スコアと学生との紐付けがうまくいっていないため早急に問い合わせる必要があります。とある大学に対してこの確認を怠った結果、気づいた時には出願締切を過ぎてしまっていて、以来、合否の連絡が届くことはありませんでした。各大学で出願ポータルの形式がかなり違っているため確認は難しいのですが、念入りなチェックが必要です。

6. 出願

上記の書類を全て用意してはじめて、出願にたどり着くことができます。(なお、ほとんどの大学で CV (履歴書) の提出が必要でしたが、そちらはウェブ上のテンプレートをそのまま使用しました。) 各大学に \$60~120 程度の出願手数料を支払うと出願は完了です。出願の締切は、早い大学で 12 月 1 日、遅いところでは年を跨いだ 1 月 15 日というものもありました。往々にして締切日は複数の大学で被るため、余裕を持った準備が肝心です。

ここに至るまで、文章の作成・依頼、出願ポータルの入力、諸費用の支払いなど、様々な負担がありました。これはアメリカの大学院に出願する世界中の学生が直面する共通の壁といえそうです。

2022 年初頭 - 面接と合格通知

1. 面接(に相当するもの)

いくつかの大学では、指導教員候補となる教授から直接、Zoom で話そう! という連絡がメールで届きました。早いものでは、なんと 1 月の第 1 週に連絡が届きとても驚きました。私の場合は、教授がこの連絡をする時点でオファー (= 合格通知) を出すことがほぼ決まっています、そのための最終確認をしたいという意図が感じられました。実際、面接(interview)という言葉が使われることはなく、「あなたにオファーを出そうと思っているのだけど」という前置きの後、終始カジュアルな雰囲気です研究室の紹介を受けたり、質問がないか尋ねられたりしま

した。他大学や他専攻では、より組織化された厳格な面接が実施されているのかもしれませんが、私の場合、合格通知の前に面接に相当するイベントが一切ない大学も複数ありました。これは、私がすでに教授と何度か連絡を取っていたせいかも知れません。

2. 合格通知

合格通知は1月中旬から順次、メールで届きました。1年間をかけて準備したことが報われた瞬間です。その後しばらくすると、出願ポータルが表示が合格者用の画面に切り替わりました。ここで、オファーを受ける(=入学の意思を示す)ボタンを選択することで、入学の手続きが始まっていきました。

最後に

2020年末に出願を決意してから合格に至るまで、約1年間の道のりは決して楽ではありませんでした。ここまでたどり着くことができたのは、奨学金の支援にとどまらず様々なサポートを提供して下さった船井情報科学振興財団の皆様や、様々なアドバイスを下さった現役の研究者の方々、出身研究室の指導教員と学生、友人ならびに家族の協力なしには成し遂げられなかったことだと感じます。今後も引き続き研究に邁進し、また私自身の体験を後輩たちに伝えていくことで、恩返しをしていきたいと思います。